



建物外観（撮影：母倉知樹）

建築概要

建設地：兵庫県神戸市東灘区深江北町
 建築主：株式会社竹中工務店
 設計：株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所
 施工：株式会社竹中工務店神戸支店
 建築面積：2,415m²
 延床面積：6,021m²
 階数：地上3階、地下なし
 高さ：12.25m
 構造種別：RC造（一部S造、SRC造）

選評

深江竹友寮は、巨大地震に見舞われても地域の防災拠点となるよう高度な安全性が確保されている。すべり機構付き鉛プラグ入り積層ゴム支承（第21回日本免震構造協会賞技術賞受賞）を実用化するなどして、すべての支承をすべり系で構成する免震システムとすることで、中小地震から巨大地震まで広範に効果を発揮させている。建て替え前の旧寮が、阪神大震災で地域住民の避難場所になるなど地域の防災拠点として機能した経緯を踏まえた取り組みだ。その志が素晴らしい。

建物の階数は周囲の住宅地に配慮して3層に抑え、1.9mピッチの外周柱とフラットスラブによる端正な外観が地域に落ち着きを与えている。耐震要素を外周部に集約することで、将来のレイアウト変更も容易にしており、意匠面でも長きにわたって地域の防災拠点として機能する要件を備えている。

建物のプランは、設計・施工者の自社建物という特性を生かし、コンパクトな個室とその近傍に配したシェア空間という構成で寮生の交流促進に挑んでいる。健康や省エネへの積極的な取り組みを含め、総体的に高く評価できる建物だ。

（畠中 克弘）

建築主：株式会社竹中工務店

設計者：株式会社竹中工務店 山本俊司、赤澤資貴、鈴木直幹、野口伸

施工者：株式会社竹中工務店 河原林敦子

免震・制振化した経緯及び企画設計等

本建築は、新入社員が1年間の共同生活を行う社員寮である。建替え前の寮では、阪神大震災の時に、寮生が被災者の救出や、負傷者の看護、消火作業などの活動を行った。寮室棟が大きな被害を受けた中、かろうじて被害を免れたホールは、地域住民の避難所として半年間開放されるなど、地域の復旧に大きな役割を果たした。この経験を受け継ぐため、最高クラスの安全性により寮生を守り、地域の防災拠点となり、開放性と自由度を確保する計画とした。これに対し、巨大地震時にも損傷しない免震システムを考案し、その特性を活かした、内部に耐震要素を配置しない上部架構計画を採用した。

技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

免震システムは、すべり系の支承のみで建物を支持し、粘性系ダンパーを付加した。大地震時は、新開発のすべり機構付き鉛プラグ入り積層ゴム支承は鉛プラグ入り積層ゴムとして挙動する。想定外の巨大地震時には、すべての支承が摺動することで、積層ゴムの損傷と建物に加わる地震力の増大を防ぐ。上部構造計画を図1に示す。外周は台形RC柱とRC扁平梁で、内部はフラットプレートと小径S柱で構成し、開放性と自由度を確保した。



建物内観（撮影：小川真輝）

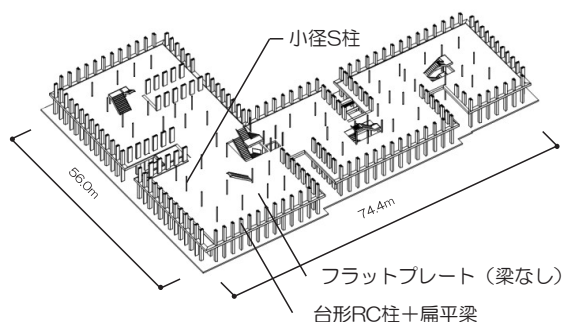


図1 上部構造計画